

新デザインで売り出せ！

茶製品パッケージを一新

池川茶業組合



農事組合法人池川茶業組合（竹村憲太郎組合長）は、茶製品のパッケージを全面的に見直し、今年の製品から新しいデザインのパッケージで販売を開始しました。

荒茶の出荷価格が低迷する中、以前の製品茶の販売に力を入れなければと昨年から構想を練り、今春約三百万円かけて独自のデザインのパッケージや商品紹介パンフレットなどを制作しました。

竹村組合長は「ひと昔前までは、荒茶出荷だけでなんとか生きていたが、近年の価格低迷で、製品茶の売上を伸ばしていかなければ生き残ることができない。茶農家は今、このまま指をくわえて衰退を待つか、積極的に攻めていくかの岐路に立っている。幸いなことに、北は北海道から南は九州まで、毎年私たちの作ったお茶を注文してくれるお客様がいるが、もっと多くの方々に私たちの作った自慢のお茶を飲んでほしい」と意気込んでいます。

広告

池川一番茶の

新茶

ふるさとの自然の中で愛情たつぷりに育った自慢の新茶ができました。今年からパッケージも新調し、自信を持ってお届けします。私たちの気持ちを込めた、『池川一番茶』をどうぞご賞味ください。



親子茶

一番茶摘み取り後の小さな遅れ芽を、香ばしく加工しました。



親子茶 500g 1,400円（税込）※（300g）900円もごいます

ギフト用

ギフト用ミニサイズも登場

霧の贅（ぜい）30g 500円（税込）
霧の薫（かおり）40g 500円（税込）

煎茶

丁寧に採み込まれた香り高い高級煎茶です。



霧の極（きわみ）100g 1,500円（税込）
霧の贅（ぜい）100g 1,000円（税込）
霧の薫（かおり）100g 700円（税込）
贈答用箱入りでできます

お問合せ
ご注文は

農事組合法人

池川茶業組合

TEL/FAX

0889-34-3877

〒781-1608 仁淀川町坂本1696

掘り出し物を探しに出掛けませんか! しもなの郷「山のなんでも市」

6月22日(日)午前9時から午後3時まで、山村自然楽校しもなの郷で、山にある物、山でとれた物、山で作った物を販売する「山のなんでも市」が開催されます。山野草・盆栽・花・苗木・農産物・木工品・竹製品・ビーズ・古道具・骨董品などのほか、引き出物やお返し物などの未使用品も出品されます。格安の掘り出し物を見つけに、ぜひお出掛けください。



大勢の買い物客でにぎわった昨年の様子

出品者も募集しています

「山のなんでも市」には、町内の方なら誰でも出品できます。ただし登録番号が必要ですので、前日までに電話等で申し込んでください。品物の搬入は当日午前6時からとなります。また販売手数料として、売上金の20%が徴収されます。詳細については、しもなの郷(☎36・0005)にお問い合わせください。



勇壮な花鳥踊り

連絡先
・花鳥踊り保存会代表 安井繁忠
☎32・2521
携帯090・7570・8192
・仁淀教育事務所
☎32・1041

花鳥踊りの伝承を!
文化十四(一八一七)年、佐川深尾家の元家臣恩田氏から伝授されたという伝統ある花鳥踊り。泉川地区の神社で奉納されていたが、踊り子不足となったため七年ほど前から途絶えていました。花鳥踊り保存会では、この踊りを伝承するため、また神社での奉納を復活させるため、踊り子および保存会の手伝いをしていただけの方を募集しています。また踊りの指導員の養成も行っていますので、興味のある方はぜひご連絡ください。

ほたえる西楽



よさこい祭り
2008 募集要項

よさこい祭り踊り子募集!

アフリカの少数民族の衣装や楽器をモチーフに、ほたえる西楽風にアレンジしてみました。とにかく楽しく、アフリカンを表現してみようと思います。

テーマは「アフリカン カーニバル」

- 募集人数 80名前後
- 参加費 22,000円(鳴子、衣装、食事、バス代)
- 参加資格 年齢、性別、特に規定なし
(ただし、未就学児は保護者同伴若しくは同行できる方との参加)
- 練習開始日 7月1日(火)午後6時30分～(越知町民総合運動体育館)
- 申し込み方法 申込用紙に必要事項を記入の上、参加費を添えて練習開始当日に持参、またはスタッフに連絡の上、手渡し。申込用紙は役場本庁、池川・仁淀総合支所などにあります
- 詳しくはメールか電話でスタッフにお問い合わせください。

〔連絡先〕ほたえる西楽

広報:水野 ☎090・8284・2460
戸梶 ☎090・5914・0133
代表:西森 ☎0889・22・2309
☎090・1004・9436

メールアドレス cot.in.qoo@docomo.ne.jp



代表:西森

集落見聞録

(第28回)

ツボイ

養蚕団地から高糖度トマトの産地へ

ツボイは、農地として最適の場所であることから、昭和四十年代後半から大規模養蚕団地が造成され、旧池川町内から入植した人たちで「ツボイ養蚕組合」を設立、大規模な養蚕経営に取り組みました。

県内一の繭総生産高を誇った時期もありましたが、農産物の輸入自由化以来、繭価は下落し、平成七年に養蚕経営を中止、以後ビニールハウスでいろいろな野菜作りを行ってきましたが、平成十二年ごろから全

ツボイは池川総合支所から車で約30分。4月末現在8世帯、16人の集落です。

集落を訪れたのは爽やかな青空が広がった5月15日。曲がりくねった道路を上り、標高750mを超える集落に到着すると、心地よい風とともにカッコウの鳴き声が出迎えてくれました。



広大な敷地にトマト栽培のビニールハウスが建ち並び、さらに登っていくと緑資源幹線林道小田池川線に入ります。

また林道付近には牛の放牧場もあり、ここからは筒上山や手箱山、雨ヶ森などが望める、大変見晴らしの良い所です。



緑豊かな草原が広がる牧草地で、のびのびと育った牛は性格も穏やかで、人にも大変懐いています。ここでは子牛を繁殖させるために、約20頭の親牛が放牧されています。

広報によど川 6月号《8》

面的に高糖度トマトの栽培に移行しました。

現在、集落内八軒で組織されている「ツボイ協業生産組合」が高品質のトマトを栽培しています。

親子二代で組合長

生産組合の前組合長は筒井征完さん。最初の入植者のお一人です。養蚕から、各種野菜の栽培、現在のトマト栽培など、さまざまな転換期を経験されていますが、その都度、素晴らしい人との出会いがあり指導を受

け、今日に至ったそうです。

「土台は作ったので、若い者に花を咲かせてほしい」と、組合長を退き、後継者となったのは息子の拓



筒井征完さん(右)と拓也さん



たわわに実ったトマト。
主に県外に出荷されます

也さん。お父さんに負けないくらの情熱でトマト作りに取り組んでいます。拓也さんは「どんどん過疎化していく町。若い人に帰ってきてほしい。農業をはじめ、いろいろなことで盛り上げれば…」と話していました。



てくてく山紀行⑤

(随時掲載)



好天の日、天狗の森から望む山並み

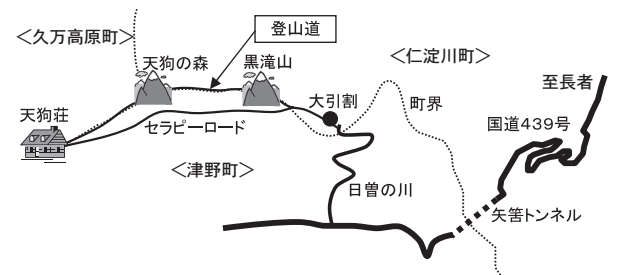
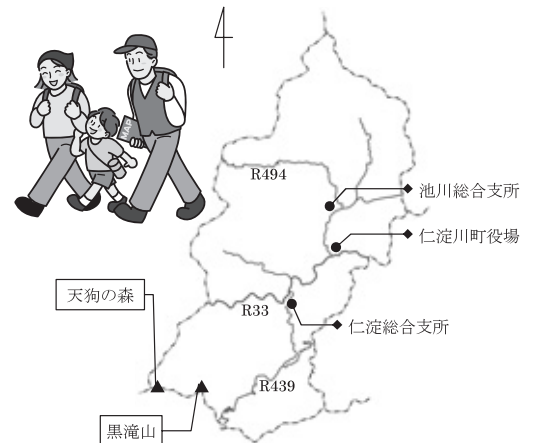
今回は、仁淀川町と津野町の「黒滝山」と「天狗の森」を紹介します。
四月の土曜日、国道439号を津野町側へと車を走らせ、途中から日曾の川集落を抜けて峠に到着。雲が低く垂れ込めるなか、この峠から登山を開始しました。
緩やかなこう配を登ること五分ほどで、国の天然記念物に指定されてい

る「大引割」に到着しました。数百万年前の地殻変動によるもの（仁淀村史）といわれ、引き裂かれた岩盤が長く大きく深く口を開けています。いつかは世界遺産にと願いながら先を急ぎます。
十五分ほど歩くと見事なヒメシヤラの林にさしかかりました。赤い木肌が際立ち、すっきりとしない天候も忘れさせてくれるほどの眺めです。
さらに十分余りで、黒滝山と天狗荘方面への分岐点に到着。自然林と熊笹の茂る登山道には、浸食され複雑な凹凸を刻んだ石灰石も目立ってきました。
分岐から二十分余りで黒滝山に到着しましたが、ガスも立ち込めており、休憩もそこそこ次の目標に向かいました。

黒滝山(1,367m)～天狗の森(1,485m)

いったん下り、ピークをひとつ越えたと姫百合平という、なんとも優美な名前の付けられた場所に出ます。黒滝山からは二十五分ほどの道のりです。
ここから最後の登りで、稜線を約三十分で登りきり、十一時半前に二番目の目標の天狗の森頂上に到着しました。頂上には「杵山」という点名の三角点が設置されています。
晴れていれば天狗高原のカルスト地形や石鎚山、中津明神山などのパノラマ風景が広がっているはずですが、あいにくのガスで景色を楽しむことができません。
山頂の気温は九・五度ありましたが、風に小雨も混じり体温を奪われて体感温度はもっと低く感じます。天候にかかわらず、山の風情を愛でる心境に達するにはまだまだのよう、弁当の箸を持つ手がかじかみます。「無我を悟るはこのときぞ」

ふと山の歌の一節が浮かびました。
帰りは天狗荘まで下り、天狗荘から「大引割」まで津野町が整備した「セラピーロード」を通ります。大部分が横道感覚の緩やかな遊歩道です。約五キロの道のりを、休憩も挟み一時間三十分かけて登山口まで帰ってきました。
今回のコースには特に急峻なところはなく、逆に天狗の森から、黒滝山へのコースをたどったり、またセラピーロードと組み合わせたりすれば、この山城の楽しみ方がいろいろ広がると感じました。



ガスの立ち込める黒滝山



ヒメシヤラの続く遊歩道